

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月7日
【四半期会計期間】	第92期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	佐藤商事株式会社
【英訳名】	SATO SHO-JI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 永瀬 哲郎
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番1号
【電話番号】	03(5218)5312（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 専務執行役員 田浦 義明
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番1号
【電話番号】	03(5218)5312（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 専務執行役員 田浦 義明
【縦覧に供する場所】	佐藤商事株式会社 埼玉支店 （埼玉県熊谷市青山九丁目1番地） 佐藤商事株式会社 神奈川支店 （神奈川県藤沢市湘南台二丁目13番4号） 佐藤商事株式会社 名古屋支店 （愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号） 佐藤商事株式会社 大阪支店 （大阪府大阪市北区堂島浜一丁目4番16号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第91期 第2四半期 連結累計期間	第92期 第2四半期 連結累計期間	第91期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	85,203	91,487	178,311
経常利益 (百万円)	1,491	1,867	3,348
四半期(当期)純利益 (百万円)	833	1,203	2,241
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,876	2,477	3,155
純資産額 (百万円)	30,957	34,369	31,993
総資産額 (百万円)	96,341	106,987	100,794
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	38.23	55.40	102.91
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	38.22	55.33	102.84
自己資本比率 (%)	31.9	31.9	31.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	401	3,356	599
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	636	276	71
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	329	3,354	848
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	1,557	1,680	1,953

回次	第91期 第2四半期 連結会計期間	第92期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	17.86	28.53

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、堅調な国内需要や企業の設備投資を背景に緩やかに回復しておりますが、アジア経済においては中国の景気減速、アジア新興国の経済鈍化など先行きは不透明な状況にあります。

このような状況下におきまして、当社グループの連結業績は、主力の商用車業界が好調に推移したことなどにより、売上高は914億8千7百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益は16億9千8百万円（前年同期比26.0%増）となりました。経常利益は18億6千7百万円（前年同期比25.2%増）となり、四半期純利益は12億3百万円（前年同期比44.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

鉄鋼事業

鉄鋼事業においては、主要取引業界である商用車業界が好調に推移したことにより、売上高は602億円（前年同期比6.7%増）、営業利益は11億8千7百万円（前年同期比17.9%増）となりました。

非鉄金属事業

非鉄金属事業においては、主要取引業界である商用車業界が好調に推移したことにより、売上高は146億1千3百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は1億5千8百万円（前年同期比60.8%増）となりました。

電子材料事業

電子材料事業においては、主力の車載機器向けプリント配線基板用積層板の販売が堅調に推移し、売上高は89億円（前年同期比6.1%増）、営業利益は2億1千8百万円（前年同期比47.4%増）となりました。

ライフ営業事業

ライフ営業事業においては、消費税増税前の駆け込み需要の反動がありましたが、自社輸入商品の拡販により、売上高は36億8千2百万円（前年同期比7.0%増）となりました。営業利益は円安の影響を受け9千7百万円（前年同期比2.2%減）となりました。

機械・工具事業

機械・工具事業においては、堅調に推移している国内やアジア新興国向けの設備投資を適宜受注したことなどにより、売上高は40億9千万円（前年同期比21.5%増）、営業利益は3千6百万円（前年同期は営業損失6百万円）となりました。

(2) 財政状態

資産

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて61億9千2百万円増加し1,069億8千7百万円となりました。その要因の主なものは、流動資産において、受取手形及び売掛金が増加したこと等により44億6千1百万円増加したこと、また、固定資産において、投資有価証券が増加したこと等により17億3千1百万円増加したこと等です。

負債

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べて38億1千7百万円増加し726億1千7百万円となりました。その要因の主なものは、流動負債において、短期借入金が増加したこと等により21億5千9百万円増加したこと、固定負債において、繰延税金負債が増加したこと等により16億5千7百万円増加したこと等です。

純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて23億7千5百万円増加し343億6千9百万円となりました。その要因の主なものは、利益剰余金が10億3千6百万円増加したこと、その他の包括利益累計額において、その他有価証券評価差額金が11億9千9百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益が18億6千7百万円となりましたが、売上債権の増加額37億2千6百万円、たな卸資産の増加額11億2千5百万円、減価償却費4億1千9百万円等により、33億5千6百万円の支出となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出2億2千万円等により、2億7千6百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入金の純増額26億4百万円等により、33億5千4百万円の収入となりました。

これらの結果から、当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ2億7千2百万円減少し、16億8千万円となりました。

(4) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	87,000,000
計	87,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,799,050	21,799,050	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	21,799,050	21,799,050	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

当第2四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	平成26年7月31日
新株予約権の数(個)	748(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	74,800(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり1円
新株予約権の行使期間	自 平成26年8月29日 至 平成56年8月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の 発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 575(注)3 資本組入額 288
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役 会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5

(注)1.新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、各新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は100株とする。

2.新株予約権を割り当てる日(平成26年7月31日に開示のとおり、平成26年8月28日と定める。以下、「割当日」という。)後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割・株式併合の比率

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。

また、上記の他、割当日後、当社が合併、会社分割又は株式交換を行う場合及びその他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合、当社は、当社取締役会において必要と認める付与株式数の調整を行うことができる。

3.発行価格は、新株予約権の行使時の払込金額(1株当たり1円)と付与日における新株予約権の公正な評価単価(1株当たり574円)を合算する。

4.(1)新株予約権者は、当社の取締役、監査役及び執行役員いずれの地位をも喪失した日の翌日から10日間以内(10日目が休日に当たる場合には翌営業日)に限り、新株予約権を行使することができる。

(2)上記(1)にかかわらず、当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案に

つき、当社株主総会で承認された場合（株主総会議決が不要の場合は、当社取締役会決議または会社法第416条第4項の規定に従い委任された執行役の決定がなされた場合）、当該承認日の翌日から30日間に限り新株予約権を行使できるものとする。ただし、（注）5に定める組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除くものとする。

（3）その他の条件については、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

5.当社が合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）

（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

（1）交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

（2）新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

（3）新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、（注）1及び（注）2に準じて決定する。

（4）新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記（3）に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

（5）新株予約権を行使することができる期間

新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

（6）新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

下記に準じて決定する。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

（7）譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

（8）新株予約権の行使の条件

（注）4に準じて決定する。

(9) 新株予約権の取得条項

当社は、以下の 、 、 、 又は の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社取締役会決議又は会社法第416条第4項の規定に従い委任された執行役の決定がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。

当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案

当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案

当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること又は当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	21,799	-	1,321	-	789

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
三神興業株式会社	東京都中央区八丁堀一丁目13番10号	1,584	7.27
いすゞ自動車株式会社	東京都品川区南大井六丁目26番1号	1,451	6.66
日野自動車株式会社	東京都日野市日野台三丁目1番地1	1,270	5.83
N O K 株式会社	東京都港区芝大門一丁目12番15号	619	2.84
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	554	2.54
佐藤商事取引先持株会	東京都千代田区丸の内一丁目8番1号	541	2.48
三原不動産株式会社	東京都中央区銀座四丁目8番4号	530	2.43
日本シイエムケイ株式会社	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号	512	2.35
J F E スチール株式会社	東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル	500	2.29
山陽特殊製鋼株式会社	兵庫県姫路市飾磨区中島字一文字3007番地	499	2.29
計	-	8,062	36.98

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 74,100	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,697,200	216,972	同上
単元未満株式	普通株式 27,750	-	-
発行済株式総数	21,799,050	-	-
総株主の議決権	-	216,972	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己保有株式が次のとおり含まれております。
 自己保有株式 30株

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 佐藤商事株式会社	東京都千代田区 丸の内一丁目8番1号	74,100	-	74,100	0.34
計	-	74,100	-	74,100	0.34

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,385	3,123
受取手形及び売掛金	53,025	56,907
商品及び製品	16,131	17,331
繰延税金資産	510	422
その他	2,391	2,069
貸倒引当金	87	35
流動資産合計	75,357	79,819
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,452	4,369
土地	5,745	5,745
その他(純額)	1,244	1,153
有形固定資産合計	11,442	11,269
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	12,717	14,565
その他	1,275	1,314
貸倒引当金	125	101
投資その他の資産合計	13,867	15,777
固定資産合計	25,436	27,168
資産合計	100,794	106,987

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	38,628	38,719
短期借入金	15,252	17,905
未払法人税等	716	590
賞与引当金	815	685
訴訟損失引当金	45	-
その他	2,890	2,607
流動負債合計	58,348	60,508
固定負債		
長期借入金	7,019	8,103
繰延税金負債	2,836	3,545
退職給付に係る負債	233	96
役員退職慰労引当金	34	38
その他	328	326
固定負債合計	10,452	12,109
負債合計	68,800	72,617
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,321	1,321
資本剰余金	882	882
利益剰余金	25,247	26,284
自己株式	52	50
株主資本合計	27,399	28,437
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,251	5,451
繰延ヘッジ損益	2	6
為替換算調整勘定	128	229
退職給付に係る調整累計額	18	10
その他の包括利益累計額合計	4,401	5,697
新株予約権	63	104
少数株主持分	129	130
純資産合計	31,993	34,369
負債純資産合計	100,794	106,987

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	85,203	91,487
売上原価	78,934	84,805
売上総利益	6,269	6,681
販売費及び一般管理費	4,921	4,983
営業利益	1,347	1,698
営業外収益		
受取利息	3	5
受取配当金	128	154
受取賃貸料	61	58
仕入割引	56	62
持分法による投資利益	46	5
その他	39	57
営業外収益合計	335	343
営業外費用		
支払利息	103	104
手形売却損	2	0
売上債権売却損	28	22
賃貸費用	36	28
その他	21	18
営業外費用合計	191	174
経常利益	1,491	1,867
特別利益		
固定資産売却益	76	0
投資有価証券売却益	-	0
補助金収入	66	-
特別利益合計	143	0
特別損失		
固定資産除売却損	4	0
投資有価証券評価損	1	-
子会社株式評価損	61	-
会員権評価損	0	-
減損損失	8	-
訴訟損失引当金繰入額	239	-
特別損失合計	316	0
税金等調整前四半期純利益	1,318	1,867
法人税、住民税及び事業税	512	596
法人税等調整額	29	67
法人税等合計	483	663
少数株主損益調整前四半期純利益	835	1,203
少数株主利益	2	0
四半期純利益	833	1,203

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	835	1,203
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,002	1,198
繰延ヘッジ損益	2	4
為替換算調整勘定	39	71
退職給付に係る調整額	-	12
持分法適用会社に対する持分相当額	0	12
その他の包括利益合計	1,041	1,273
四半期包括利益	1,876	2,477
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,874	2,476
少数株主に係る四半期包括利益	2	0

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,318	1,867
減価償却費	500	419
貸倒引当金の増減額(は減少)	941	75
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	2	4
退職給付引当金の増減額(は減少)	3	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	7
受取利息及び受取配当金	131	159
支払利息	103	104
持分法による投資損益(は益)	46	5
固定資産除売却損益(は益)	71	0
投資有価証券評価損益(は益)	1	-
子会社株式評価損	61	-
補助金収入	66	-
売上債権の増減額(は増加)	532	3,726
たな卸資産の増減額(は増加)	183	1,125
仕入債務の増減額(は減少)	578	8
その他	48	46
小計	547	2,651
利息及び配当金の受取額	137	169
利息の支払額	104	103
訴訟和解金の支払額	-	45
法人税等の支払額	178	725
営業活動によるキャッシュ・フロー	401	3,356
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	303	220
有形固定資産の売却による収入	326	0
無形固定資産の取得による支出	41	18
投資有価証券の取得による支出	487	17
貸付けによる支出	117	69
その他	12	48
投資活動によるキャッシュ・フロー	636	276
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	509	2,604
長期借入れによる収入	1,296	1,900
長期借入金の返済による支出	794	875
社債の償還による支出	100	-
配当金の支払額	216	272
その他	4	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	329	3,354
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	6
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	548	272
現金及び現金同等物の期首残高	2,105	1,953
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,557	1,680

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、YUASA SATO(Thailand)Co.,Ltd.は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が5千5百万円増加(投資その他の資産のその他に含めて表示)し、退職給付に係る負債が1億7千7百万円減少し、利益剰余金が1億6千4百万円増加しております。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
受取手形割引高	1,599百万円	-百万円
受取手形裏書譲渡高	157	237

2 保証債務

次の関係会社について、リース会社からのリース債務残高に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
YUASA SATO(Thailand)Co.,Ltd.	1,154百万円	1,156百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
運賃	741百万円	793百万円
給与手当	1,220	1,271
賞与引当金繰入額	584	579
退職給付費用	82	86
役員退職慰労引当金繰入額	2	4
貸倒引当金繰入額	2	59

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	3,005百万円	3,123百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,448	1,442
現金及び現金同等物	1,557	1,680

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	217	10.0	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

(2)基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月6日 取締役会	普通株式	217	10.0	平成25年9月30日	平成25年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	271	12.5	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

(2)基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月5日 取締役会	普通株式	217	10.0	平成26年9月30日	平成26年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鉄鋼事業	非鉄金属事業	電子材料事業	ライフ営業事業	機械・工具事業	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
売上高						
外部顧客への売上高	56,443	13,559	8,392	3,440	3,367	85,203
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	56,443	13,559	8,392	3,440	3,367	85,203
セグメント利益 又は損失()	1,007	98	148	99	6	1,347

(注) セグメント利益又は損失()は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鉄鋼事業	非鉄金属事業	電子材料事業	ライフ営業事業	機械・工具事業	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
売上高						
外部顧客への売上高	60,200	14,613	8,900	3,682	4,090	91,487
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	60,200	14,613	8,900	3,682	4,090	91,487
セグメント利益	1,187	158	218	97	36	1,698

(注) セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	38円23銭	55円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	833	1,203
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	833	1,203
普通株式の期中平均株式数(千株)	21,791	21,723
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	38円22銭	55円33銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	8	29
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....217百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日.....平成26年12月9日

(注) 平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

佐藤商事株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齊藤 文男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川村 敦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている佐藤商事株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、佐藤商事株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。